

大阪市イノベーション促進評議会 平成 27 年度第 1 回 会議要旨

1. 日時

平成 27 年 10 月 1 日（木）8:00～9:30

2. 場所

大阪イノベーションハブ（WEB 会議）

3. 出席者

松本委員長、藤沢委員、吉原委員

事務局（吉川理事、高田部長、中野課長、小林課長代理）

4. 議題

- ・平成 27 年 4 月～8 月の大阪イノベーションハブの活動実績について
- ・「うめきたにおけるグローバルイノベーション創出支援の基本方針」の改定について

5. 議事要旨

意見等の概要は次のとおり。

(1) 委員長及び委員長代理の選任

- ・松本委員を委員長に、吉原委員を委員長代理として選任。

(2) 平成 27 年 4 月～8 月の大阪イノベーションハブの活動実績について

- ・まず、第一印象としてたいへん順調に進んでいる。
- ・プロジェクト創出支援の進捗は、年度末だけでなく随時、少なくとも半年に一度は集計して報告があればもっと現実味のある話ができる。
- ・企業や大学との協働も強化すること。大学のベンチャー創出活動の一部として大阪イノベーションハブが組み込まれるようになればいい。
- ・グローバルなパイプラインの形成には、政府機関より民間との関係構築に努め、起業家育成、創業支援で重要な役割を果たす人とのネットワーク拡大を重視していくのがいい。
- ・イベント数やイベント参加者数だけでなく、その中身・クオリティが重要。例えばリピート率についても把握し、リピーターの動向を分析して原因を探るなどしてはどうか。
- ・J E T R O （日本貿易振興機構）は海外ビジネスパーソンに対して日本での活動場所を提供している。大阪イノベーションハブでも海外の人が気軽に立ち寄り日本のアントレプレナーとも交流できる場ときっかけを提供してはどうか。

- ・大学や企業に活用してもらうハブとしてはどうか。学生が集まれば企業からの支援も受けやすい。
- ・地域連携のために、全国のコーディネーターや、自治体で走り回っているキーパーソンを集めて連携させる会議を大阪イノベーションハブで開催してはどうか。
- ・大企業がハッカソンをやろうとしてもやり方が分からない。開催ノウハウをホームページに掲出すれば、ハッカソンをやりたい企業を取り込める。
- ・大阪イノベーションハブが関西エリアのハブとなればいい。

(3) 「うめきたにおけるグローバルイノベーション創出支援の基本方針」の改定について

- ・スーパープロデューサー機能の評価をBとしているが、謙虚な評価だと思う。全く何もないところから始めて3年目でここまで体制を構築できたのでAに値する。
- ・A評価の項目が次はどうすればSになるかを考えるといい。
- ・最初の3年が経過したら完全に民間移行するかと思っていたが、あと3年猶予があるなら、それに向けて方針を作り、計画的に進めていくべきである。
- ・将来的な民間移行は大変な作業なので、あるべき姿、具体的な姿を定めて取り組むべきである。
- ・第Ⅱ期の目標は保守的な印象がある。初年度は立上げ期で大変だが、うまく立ち上がると加速していくはずであるから、SNS等でつながる人数なら20万人、プロジェクトは200件、ベンチャーへの投資額は20億円でもいいのではないかと、単純にそう思った。
- ・改定版としては、これまで評議会でも取り上げた課題や新たな課題を積極的に盛り込み、進化したものになっている。
- ・多様な人々がオープンマインドでフラットな関係でつながるという理念は重要。今後注目すべきは銀行。成長企業支援、中小・ベンチャーと大企業をつなぐ橋渡し役の機能を強化しているので、うまく取り込むといい。また、イノベーション・エコシステムを作ろうとしている大企業にうまく大阪イノベーションハブを活用してもらえる仕組みを作っていってほしい。
- ・次の評議会では、基本方針の改定案に対して改めて意見を出すので、大阪市として確定してほしい。

6. 会議資料

- (1) 資料1 平成27年度事業（4月～8月）にかかる目標設定とアウトカム（成果）について
- (2) 資料2 グローバルイノベーション創出支援事業 課題に対応するイベント（平成27年4月～8月）
- (3) 資料3 うめきた基本方針の自己評価と改定案

(4) 参考資料1 うめきたにおけるグローバルイノベーション創出支援の基本方針
(平成25年5月) (資料3の左列の内容と同じ)

(5) 参考資料2 うめきたにおけるグローバルイノベーション創出支援の基本方針
(改定版)【案】 (資料3の右列の内容と同じ)